

# 平成28年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

## 調査の概要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の満18歳以上の男女個人	◆調査方法 郵送法※インターネット回答との併用
	◆標本数 3,000 標本	◆調査期間 平成28年11月7日(月)～11月28日(月)
	◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出	◆有効回収数 1,351 標本
		◆有効回収率 45.0%
調査項目	1 定住状況について	5 市民の防災意識について
	2 生活環境の評価について	6 川崎市の都市交通について
	3 関心ごとと行動範囲について	7 介護予防の取組について
	4 市政に対する評価と要望について	8 ボランティアについて

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

## 調査回答者の属性

### 1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	630	46.6
2 女性	702	52.0
(無回答)	19	1.4
合計	1,351	100.0

### 2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	212	15.7
2 幸区	157	11.6
3 中原区	221	16.4
4 高津区	213	15.8
5 宮前区	192	14.2
6 多摩区	179	13.2
7 麻生区	163	12.1
(無回答)	13	1.0
合計	1,351	100.0

### 3 回答方法別

	基数(人)	構成比(%)
1 郵送	1,136	84.1
2 インターネット	215	15.9
合計	1,351	100.0

### 4 性/年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 18～29歳	149	11.0	70	11.1	79	11.3	-	-
2 30歳代	232	17.2	101	16.0	131	18.7	-	-
3 40歳代	274	20.3	115	18.3	158	22.5	1	5.3
4 50歳代	233	17.2	113	17.9	120	17.1	-	-
5 60歳代	248	18.4	128	20.3	118	16.8	2	10.5
6 70歳以上	203	15.0	103	16.4	96	13.7	4	21.1
(無回答)	12	0.9	-	-	-	-	12	63.2
合計	1,351	100.0	630	100.0	702	100.0	19	100.0

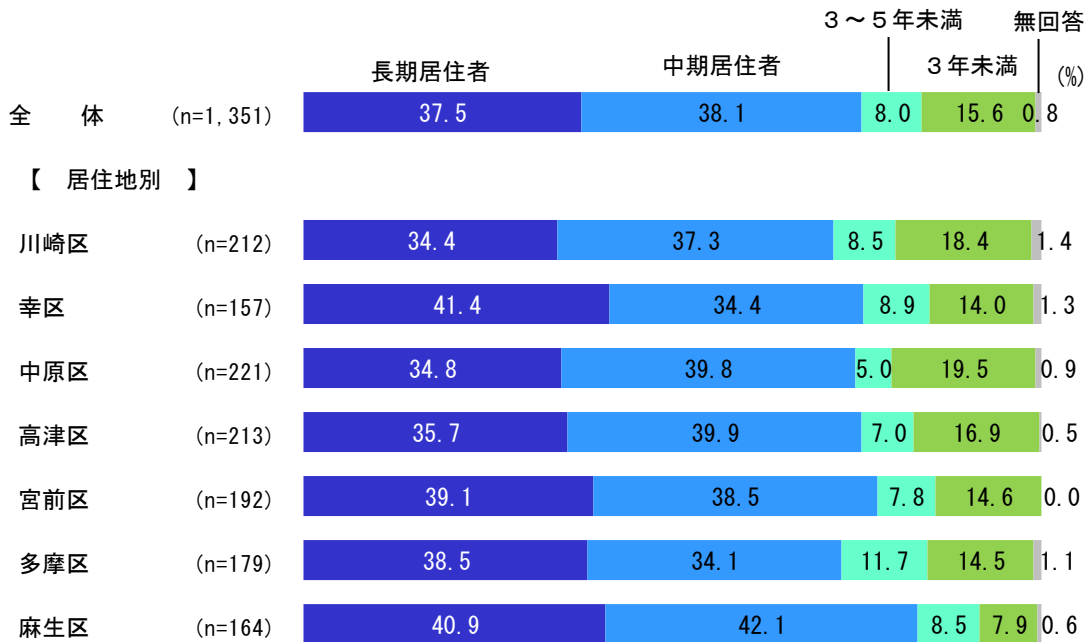
## 1 居住年数

居住地別でみると、〈長期居住者<sup>※1</sup>〉は、幸区（41.4％）で最も高く、次いで、麻生区（40.9％）、宮前区（39.1％）の順となっている。〈中期居住者<sup>※2</sup>〉は、麻生区（42.1％）で最も高く、次いで高津区（39.9％）、中原区（39.8％）の順となっており、「3年未満」は、中原区（19.5％）で最も高くなっている。

図1

長期居住者：居住年数が20年以上

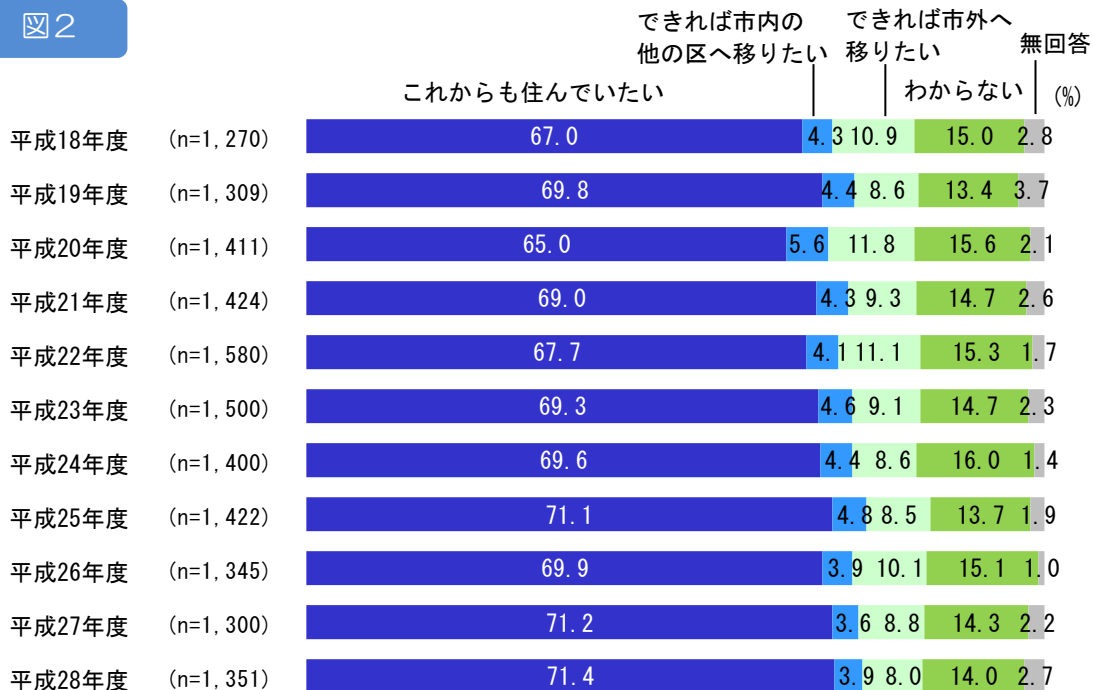
※2 中期居住者：居住年数が5年以上20年未満



## 2 定住意向

「これからも住んでいたい」は71.4％となっており、10年前（平成18年度）と比較し4.4ポイント増加している。

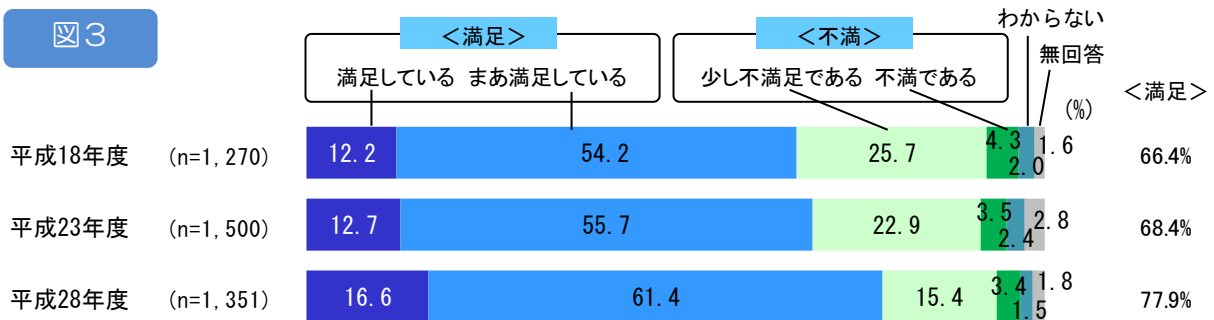
図2



## 1 総合的な生活環境の満足度

「満足している」(16.6%)と「まあ満足している」(61.4%)を合わせた<満足>は77.9%となっており、5年前(平成23年度)と比較して9.5ポイント、10年前(平成18年度)と比較して11.5ポイント増加している。

図3

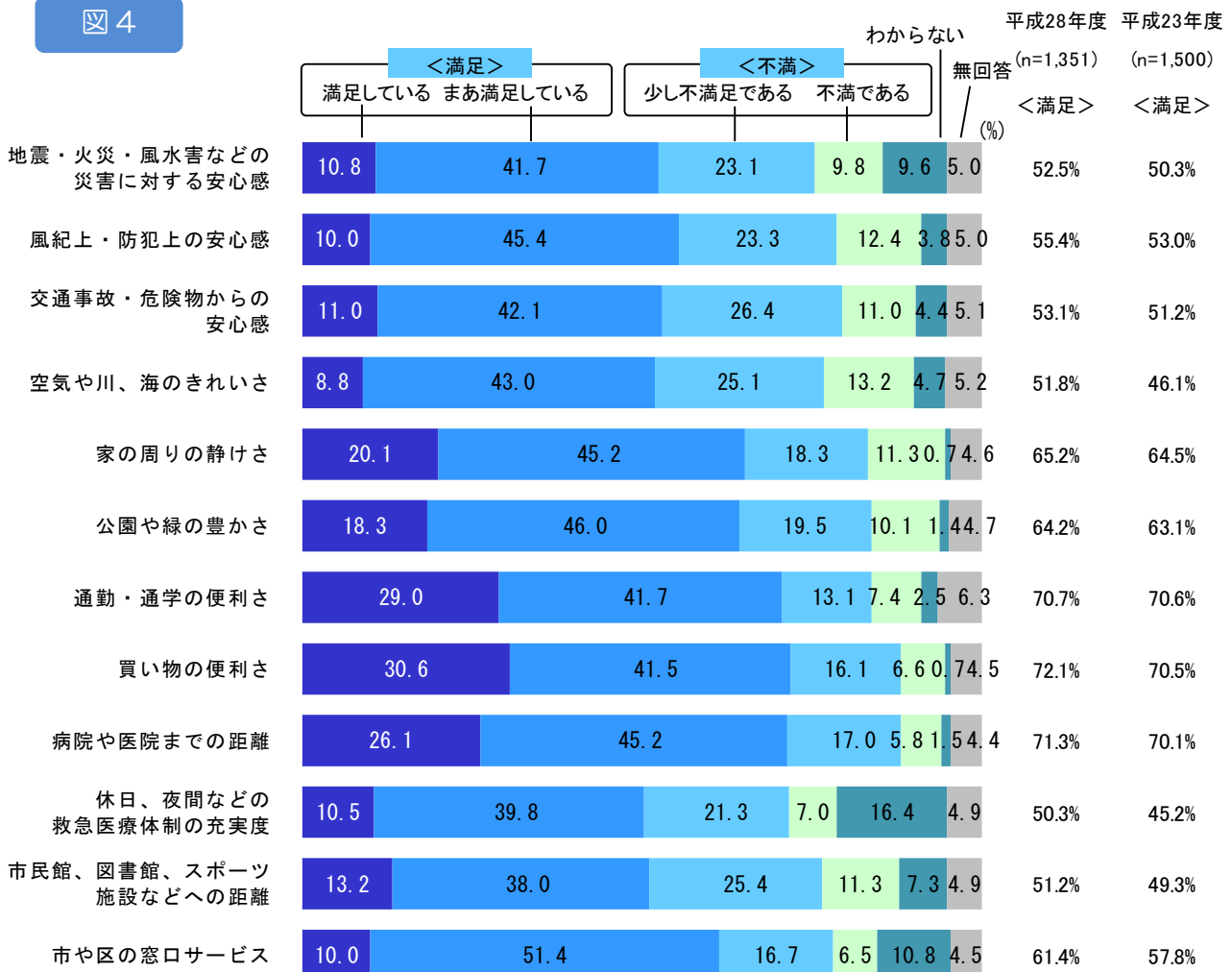


## 2 生活環境の満足度

「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、「買い物の便利さ」(72.1%)、「病院や医院までの距離」(71.3%)、「通勤・通学の便利さ」(70.7%)で7割を超えている。

5年前(平成23年度)と比較して、「空気や川、海のきれいさ」と「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は約5ポイント増加している。また、5年前を下回った点は見られない。

図4



## 1 関心を持っていること

「健康」(70.8%)が最も高く、次いで「老後の生活」(50.5%)、「家族」(49.1%)、「お金・財産」(44.3%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(44.1%)、「趣味・娯楽」(39.0%)、「子ども」(35.2%)の順となっている。

過去5年間の上位6項目の推移をみると、「健康」が首位で変わらず、「老後の生活」が第3位から第2位、「お金・財産」が第5位から第4位に、「家族」が第2位から第3位になったほか、「趣味・娯楽」が6位に入った。

図5

(複数回答) n=1,351

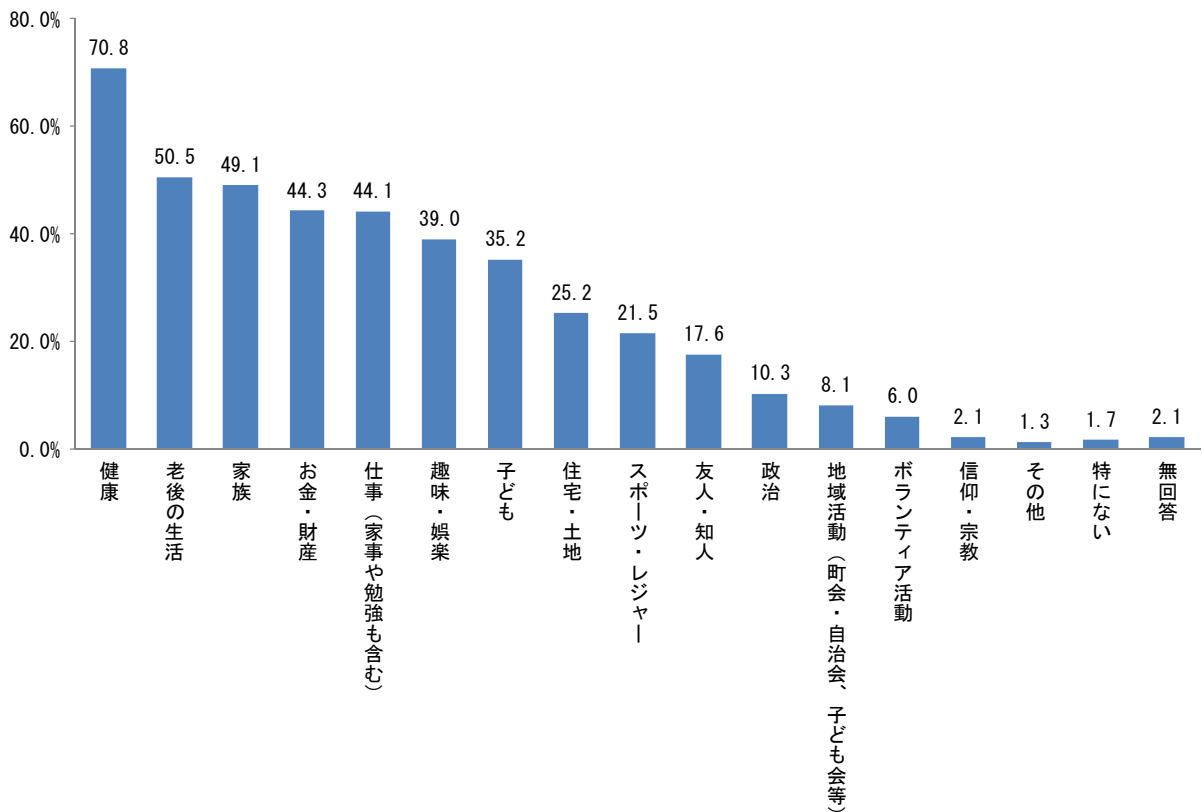


表1

過去5年経年比較(上位6項目)

年度	順位					
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成23年度 (n=1,500)	健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1
平成24年度 (n=1,400)	健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1
平成25年度 (n=1,422)	健康 67.2	老後の生活 52.4	家族 46.2	仕事(家事や勉強も含む) 41.8	趣味・娯楽 40.3	お金・財産 39.2
平成26年度 (n=1,345)	健康 67.8	老後の生活 50.9	家族 49.8	仕事(家事や勉強も含む) 45.3	お金・財産 43.3	趣味・娯楽 39.0
平成27年度 (n=1,300)	健康 70.4	家族 56.9	老後の生活 53.1	お金・財産 49.8	仕事(家事や勉強も含む) 42.5	子ども 38.2
平成28年度 (n=1,351)	健康 70.8	老後の生活 50.5	家族 49.1	お金・財産 44.3	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	趣味・娯楽 39.0

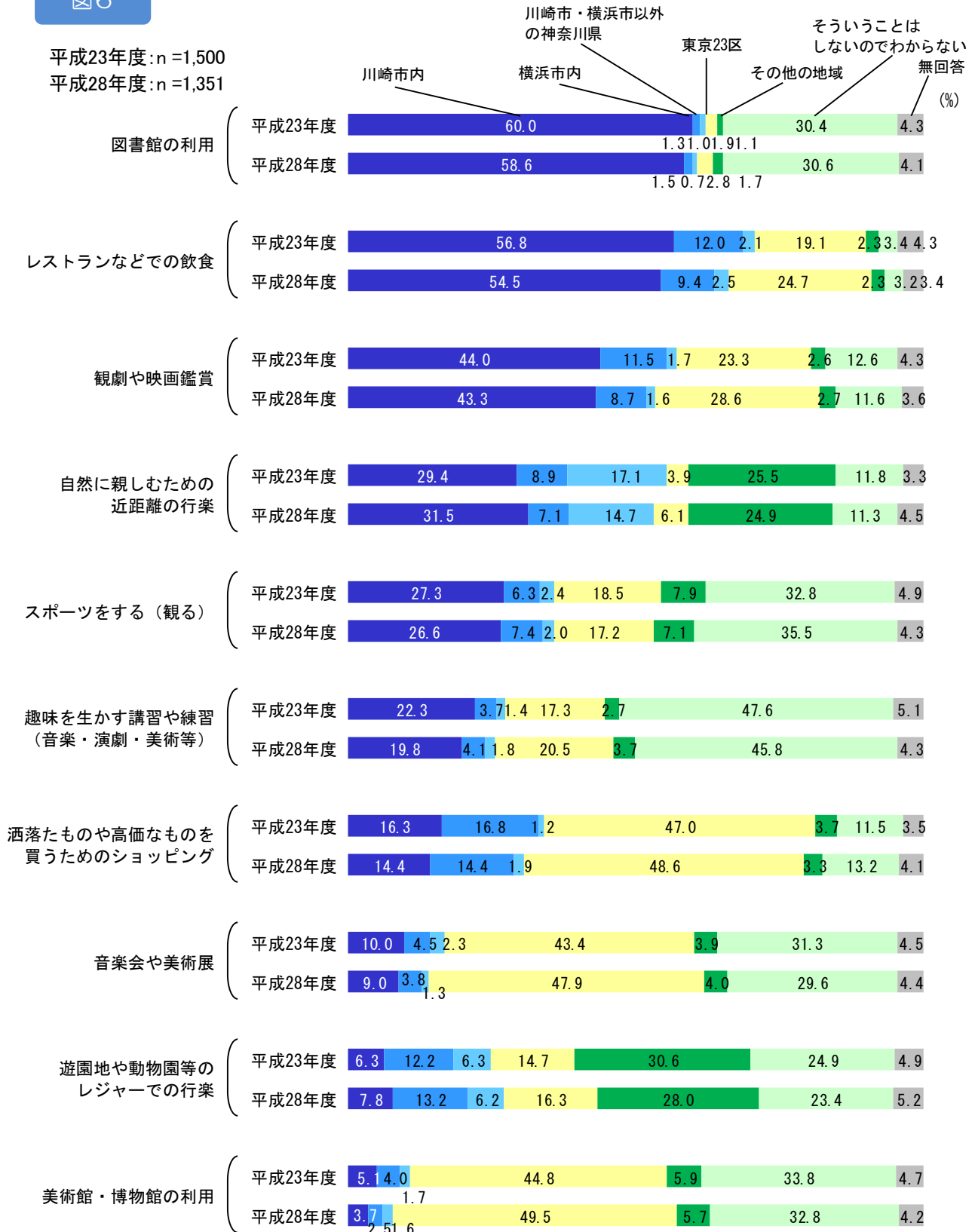
(%)

## 2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

『川崎市内』の利用率が最も高いのは「図書館の利用」(58.6%)で、次いで「レストランなどでの飲食」(54.5%)、「観劇や映画鑑賞」(43.3%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(31.5%)、「スポーツをする(観る)」(26.6%)の順となっている。

5年前(平成23年度)と比較すると、『川崎市内』の利用率に大きな変化は見られないが、「レストランなどでの飲食」「観劇や映画鑑賞」「音楽会や美術展」「美術館・博物館の利用」の点で、『東京23区』の利用率が4~5ポイント増加している。

図6



## 1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

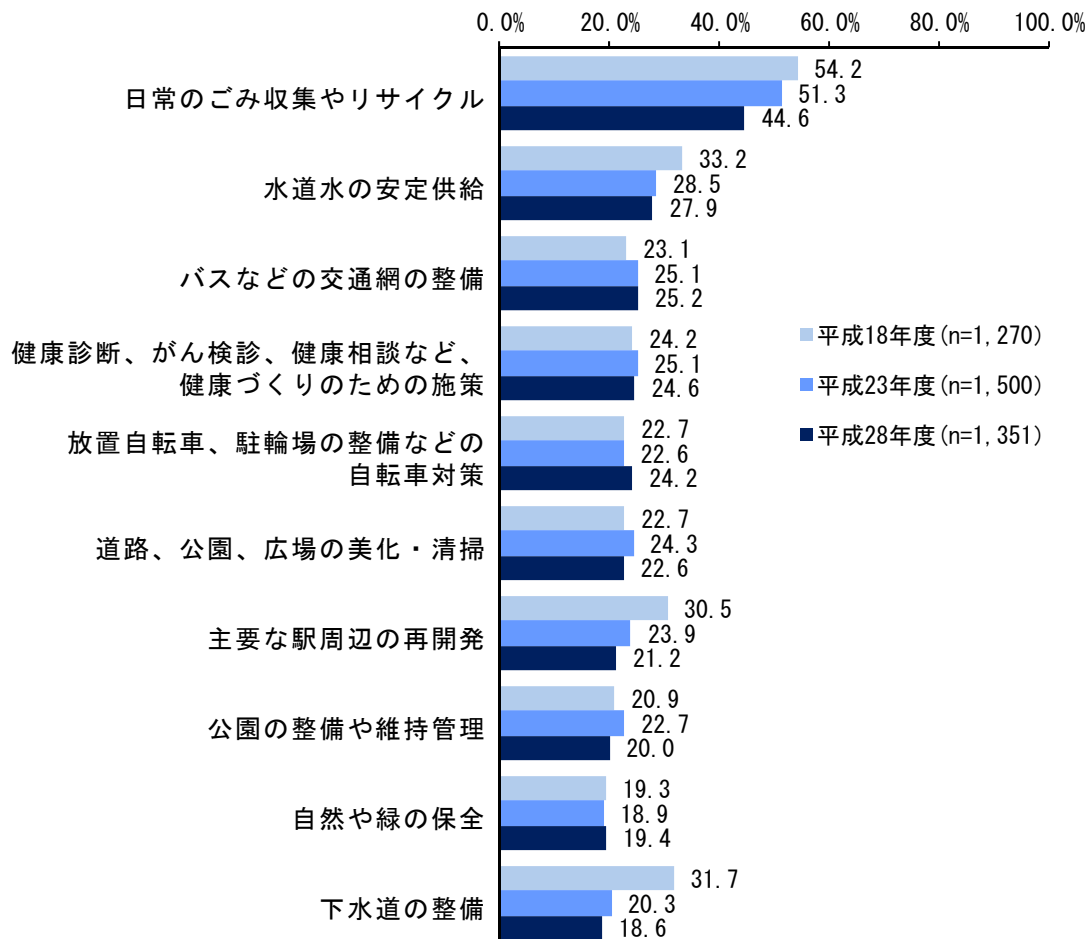
「日常のごみ収集やリサイクル」(44.6%)が最も高く、次いで「水道水の安定供給」(27.9%)、「バスなどの交通網の整備」(25.2%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(24.6%)、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(24.2%)の順となっている。

5年前(平成23年度)と比較すると、回答上位10項目で大きく増加している点は見られない。一方、「日常のごみ収集やリサイクル」で6.7ポイント減少している。

10年前(平成18年度)と比較すると、回答上位10項目で大きく増加している点は見られない。一方、「下水道の整備」で13.1ポイント、「日常のごみ収集やリサイクル」で9.6ポイント、「主要な駅周辺の再開発」で9.3ポイント、「水道水の安定供給」で5.3ポイントと、それぞれ減少している。

図7

(複数回答、上位10項目、平成28年度・平成23年度・平成18年度との比較)



※平成18年度の「水道水の安定供給」は、「飲料水の安定供給」で実施

※回答選択肢は、平成18年度は33項目、平成23年度と平成28年度は37項目で実施

## 2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

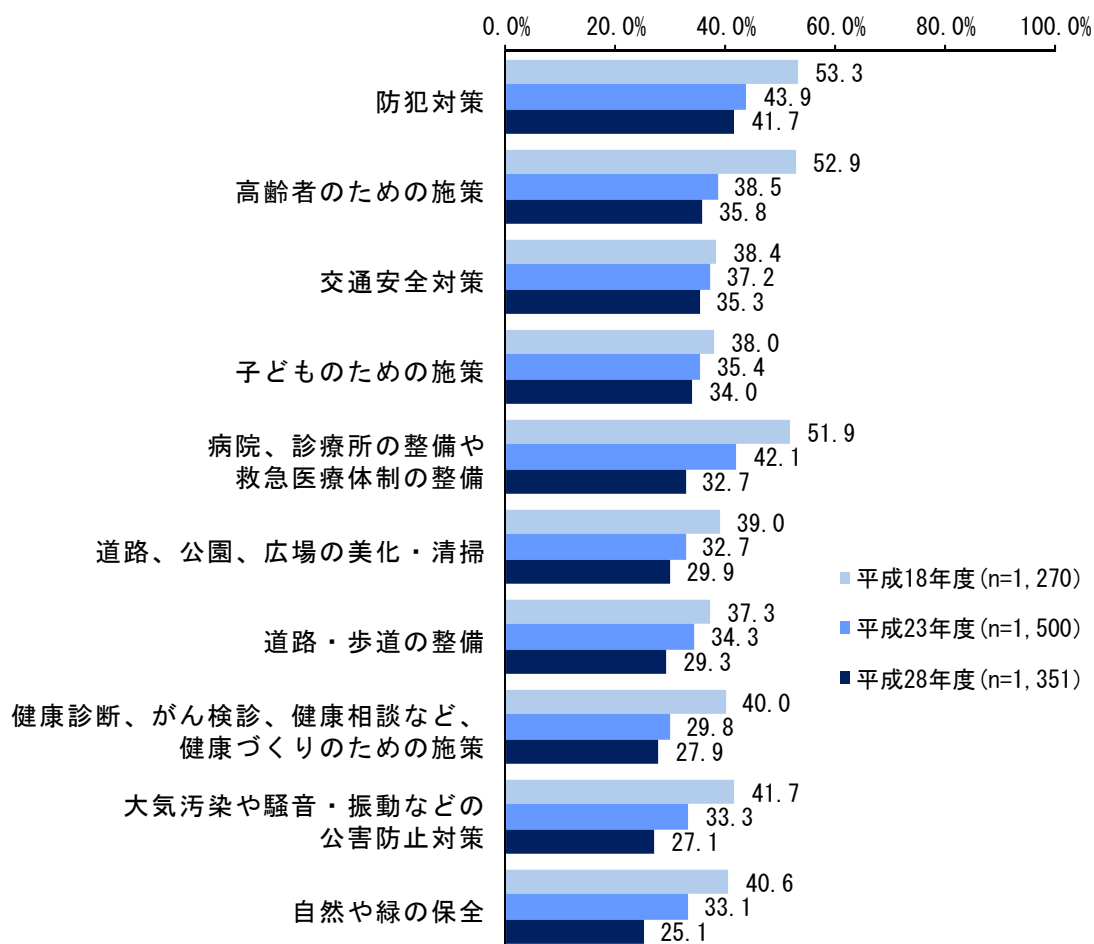
「防犯対策」(41.7%)が最も高く、次いで「高齢者のための施策」(35.8%)、「交通安全対策」(35.3%)、「子どものための施策」(34.0%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(32.7%)の順となっている。

5年前(平成23年度)と比較すると、回答上位10項目で増加している点は見られない。一方、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」で9.4ポイント、「自然や緑の保全」で8.0ポイント、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」で6.2ポイント、「道路・歩道の整備」で5.0ポイントと、それぞれ減少している。

10年前(平成18年度)と比較すると、回答上位10項目で増加している点は見られない。

一方、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」で19.2ポイント、「高齢者のための施策」で17.1ポイント、「自然や緑の保全」で15.5ポイント、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」で14.6ポイント、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」で12.1ポイント、「防犯対策」で11.6ポイントと、それぞれ大きく減少している。

図8 (複数回答、上位10項目、平成28年度・平成23年度・平成18年度との比較)



※回答選択肢は、平成18年度は33項目、平成23年度と平成28年度は37項目で実施

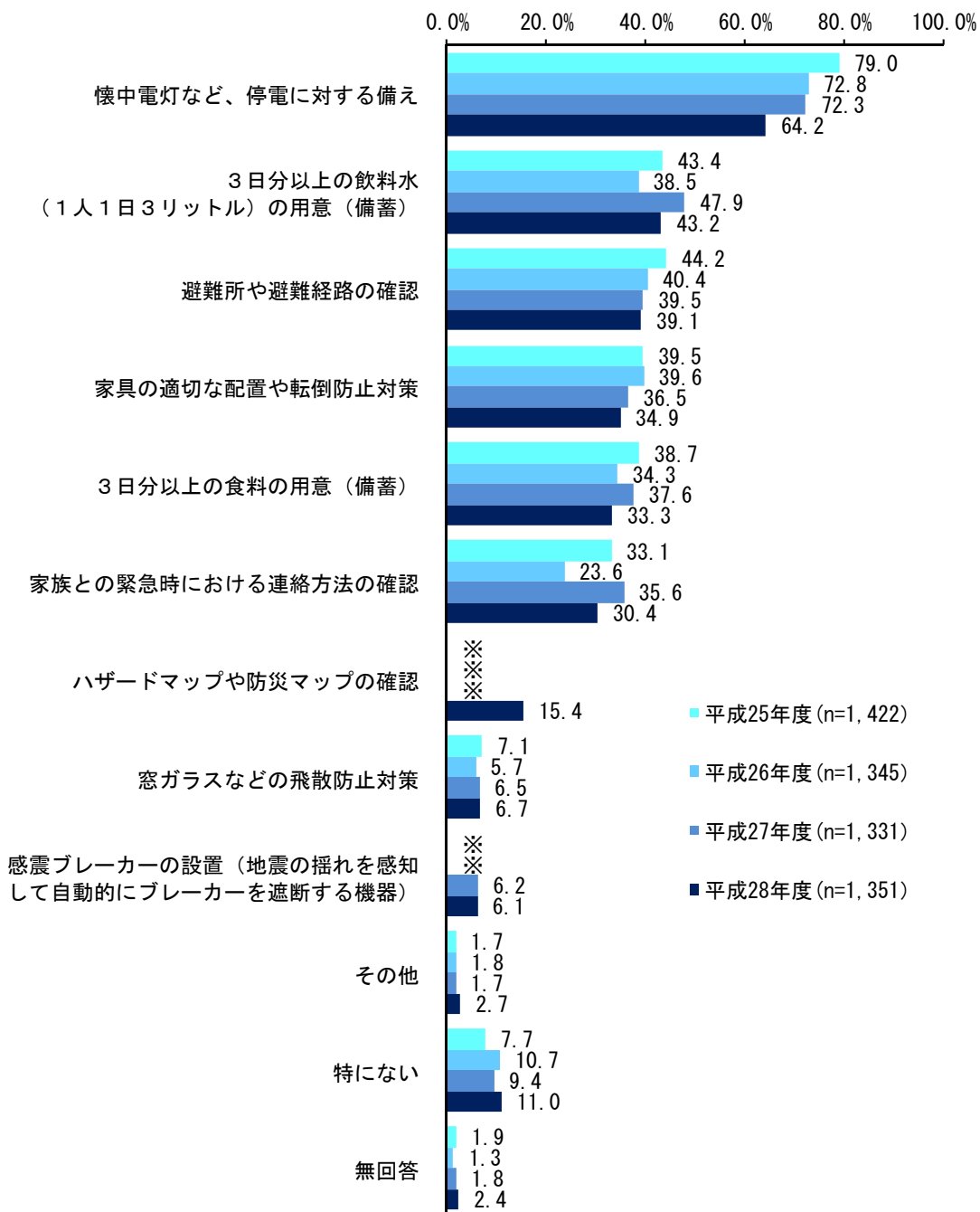
## 1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

大規模な災害に備えて、家庭内で行っている取組について聞いた。「懐中電灯など、停電に対する備え」(64.2%)が最も高く、次いで「3日以上以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(43.2%)、「避難所や避難経路の確認」(39.1%)となっている。

3年前(平成25年度)と比較すると、懐中電灯など、停電に対する備えで14.8ポイント、「避難所や避難経路の確認」で5.1ポイント、「3日以上以上の食料の用意(備蓄)」で5.4ポイント減少している。

図9

(複数回答)



※「感震ブレーカーの設置」は、平成27年度から追加

※「ハザードマップや防災マップの確認」は、平成28年度から追加



## 2 川崎市の災害情報の入手手段

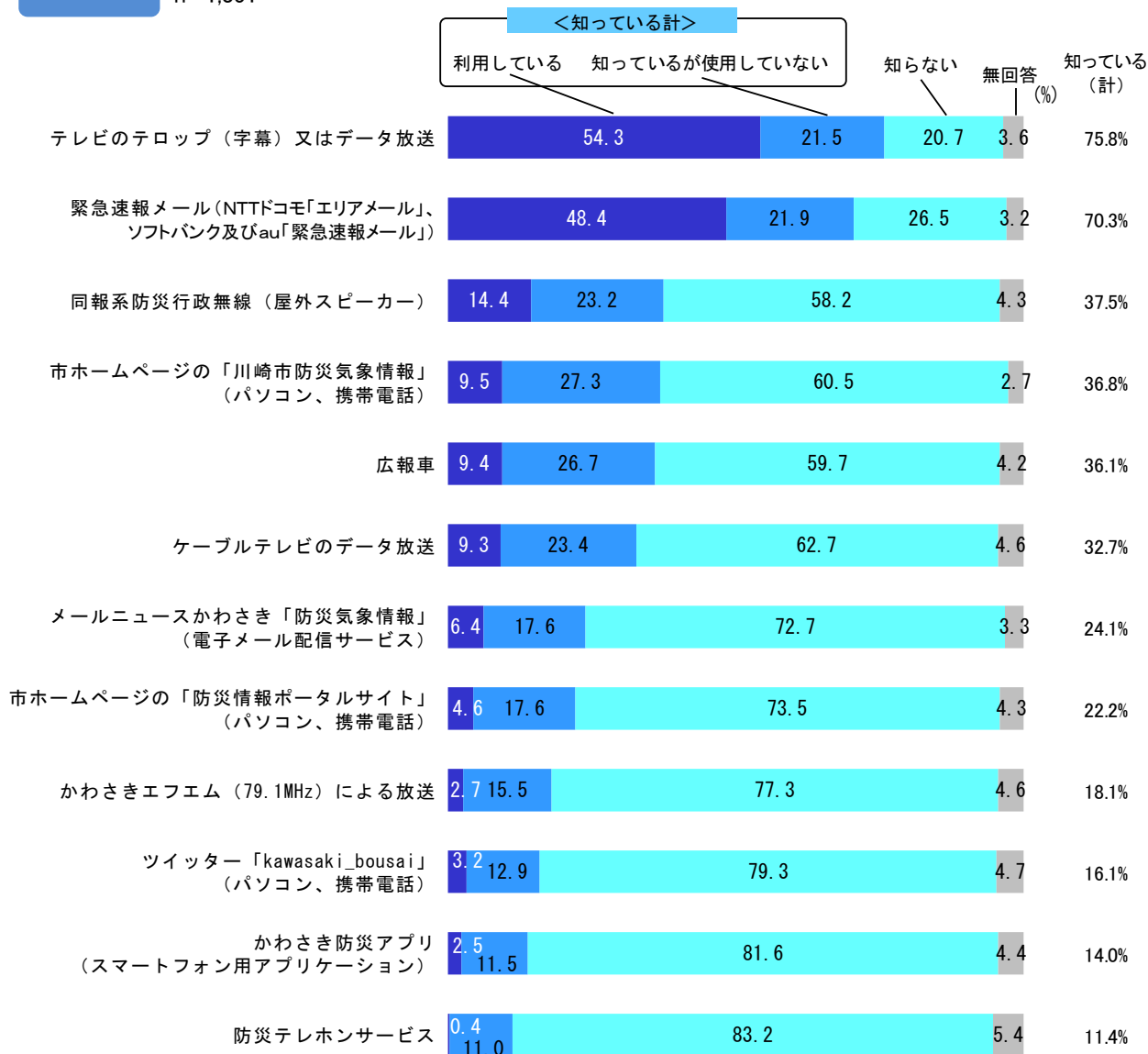
災害に関する情報を提供している手段の認知度等について聞いた。

「利用している」と「知っているが利用していない」を合わせた知名度（知っている（計））では、「テレビのテロップ（字幕）又はデータ放送」（75.8%）が最も高く、次いで「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」（70.3%）、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（37.5%）、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」（パソコン、携帯電話）」（36.8%）となっている。

現在の利用率（利用している）でも、「テレビのテロップ（字幕）又はデータ放送」（54.3%）が最も高く、次いで「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」（48.4%）の順となっている。

図 10

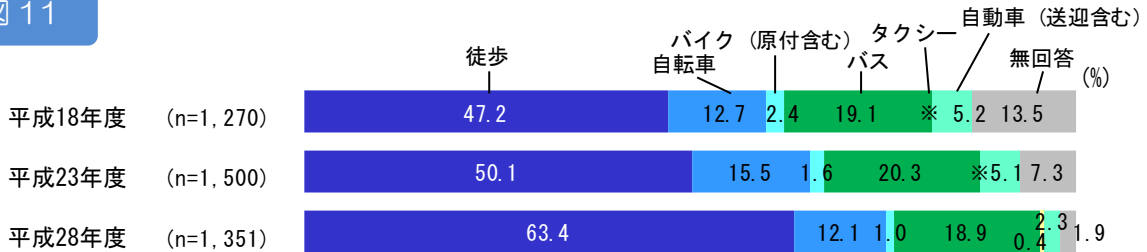
n=1,351



## 1 最寄駅までの主な交通手段

「徒歩」(63.3%) が最も高く、次いで「バス」(18.9%)、「自転車」(12.1%) の順となっている。「徒歩」は、5年前(平成23年度)と比較して13.2ポイント、10年前(平成18年度)と比較して16.1ポイント増加している。

図 11



※「タクシー」は、平成28年度から追加

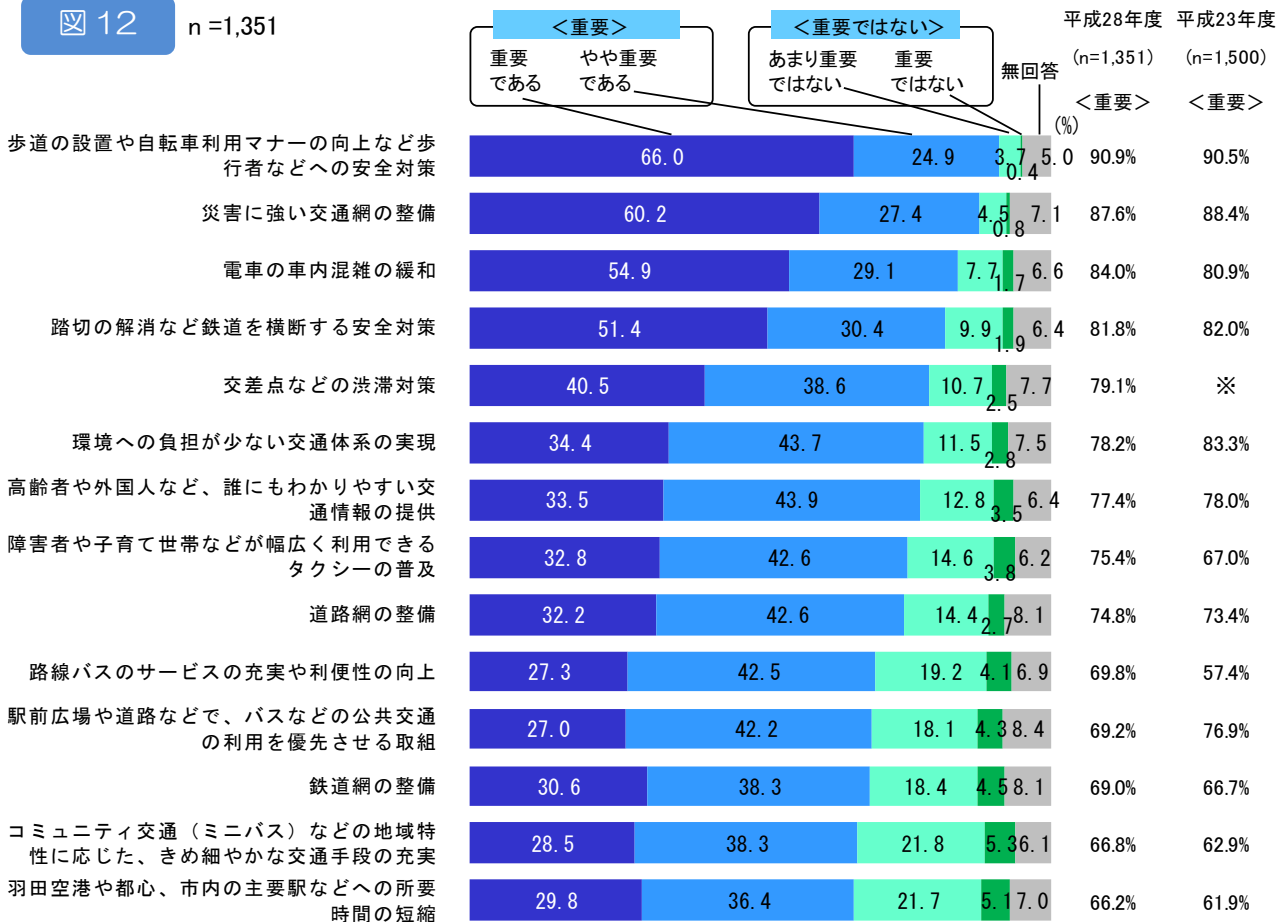
## 2 今後の交通政策における各取組の重要度

「重要である」と「やや重要である」を合わせた<重要>は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策」(90.9%)、「災害に強い交通網の整備」(87.6%)、「電車の車内混雑の緩和」(84.0%)、「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策」(81.8%)までが8割以上と高くなっている。

5年前(平成23年度)と比較して、「路線バスのサービスの充実や利便性の向上」で12.4ポイントの増加、「障害者や子育て世帯などが幅広く利用できるタクシーの普及」で8.4ポイントの増加となるなど、身近なエリアの地域公共交通サービスの充実に対する重要度が高まっている。

図 12

n = 1,351



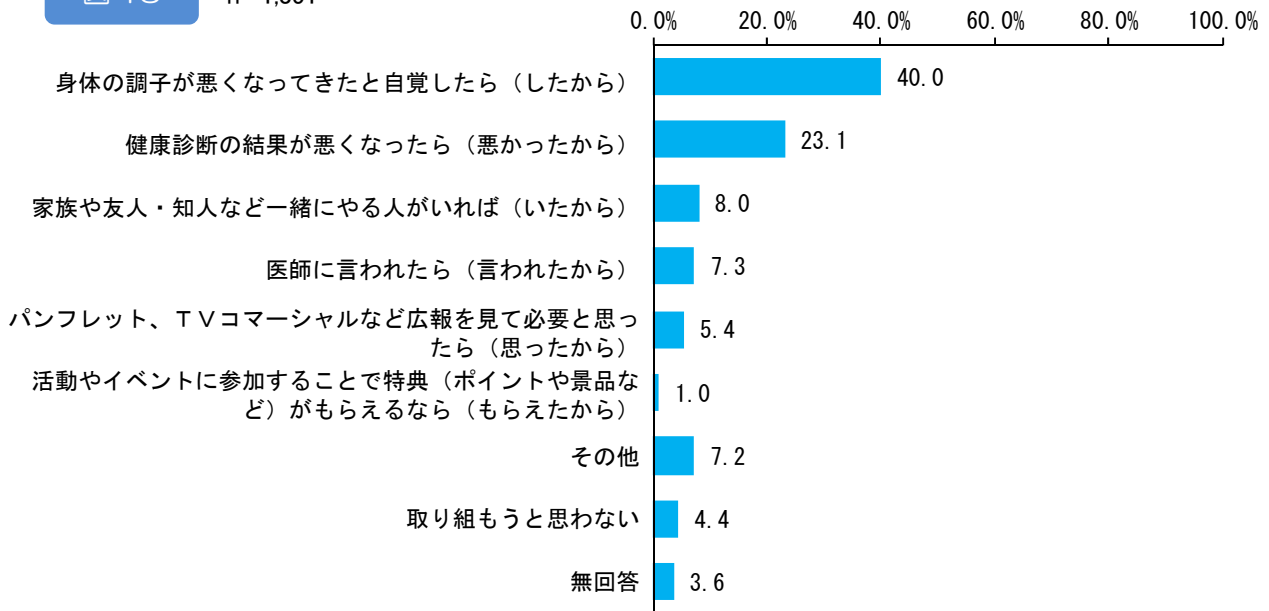
※「交差点などの渋滞対策」は、平成28年度から追加

## 7 介護予防の取組について

### 1 介護予防に取り組むきっかけ

「身体の調子が悪くなってきたと自覚したら（したから）」（40.0%）が最も高く、次いで「健康診断の結果が悪くなったら（悪かったから）」（23.1%）となっている。

図 13 n=1,351

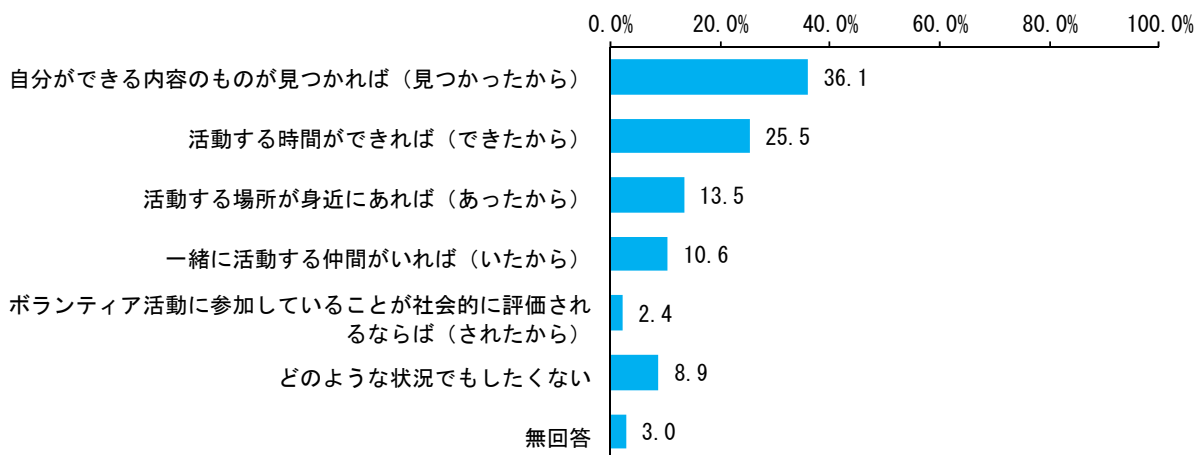


## 8 ボランティアについて

### 1 ボランティア活動を始めるための状況

「自分ができる内容のものが見つければ（見つかったから）」（36.1%）が最も高く、次いで「活動する時間ができれば（できたから）」（25.5%）の順となっている。

図 14 n=1,351



# Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

平成28年度第2回かわさき市民アンケート概要版  
平成29年2月

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課  
〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2148 (直通)

FAX 044-200-3919